

原町区保育所(園)父母の会連絡協議会 ふれあい懇談会会議録 (第2回)

開催日 平成 27 年 10 月 13 日(火)
19 時 00 分から

開催地 社会福祉法人福陽会 北町保育所 ホール
参加者 17名

【質疑】

質問 1 : フォローアップ除染の周知や告知関係はどのようにするのか。除染業者の車が多くなっているが、交通量の増加に対する対策はあるのか。

回答 1 : フォローアップ除染については、除染の効果が維持されていない所についてフォローアップ除染をする考えですが、どのような場合ということが示されておりませんので、現在、環境省とどのような形でやっていくのか、その考え方の整理について申し入れをしているところです。除染業者は、現在、住宅周りや農地の除染を合わせて2千2～3百人作業員が入っています。小高区と原町南は国が除染をしておりますが、ここには3千7百人程度作業員が入っています。市民の皆様には、朝晩の交通渋滞について、大変ご迷惑をかけております。除染については、福島復興のために来ていただいているので、法令の遵守、交通法規の遵守を始めとして、市民の皆様にご心配をかけないよう指示しているところです。

質問 2 : 除染が終わった世帯でも半数以上が不安を感じていることに対し、市はどのように考えているか。

回答 2 : 除染を行い市民の皆様への安心は、どのようなことを実現すれば良いのか常々考えています。放射線量が、1時間当たり0.23マイクロシーベルトを下回れば、年間1ミリシーベルトという国が定めた長期目標に達しますので、それは安心だと考えています。一方で、0.2マイクロシーベルトや0.1マイクロシーベルトでも心配だと言われると、除染の手法では達成することが難しいと考えております。生活の安心感は、ものさしが皆違いますので、全てを満足させることは難しいと思っております。線量を少しでも下げる努力については、これからのフォローアップ除染の内容を検討しながら対応して参ります。

質問 3 : 除染が終わり線量の数値もかなり低いですが、不安よりも不満を感じる。や

ってほしいことを調査員に話すと、施工は別なので施工者に言ってくれと言われ、施工者に言うとそれは云々と言われる。私達がやってほしいことに差が出てきて、不満が不安に変わってきていると感じるが、業者に徹底することは出来ないのか。

回答3： 実際の作業体系については、庭のグループやモニタリングのグループなど、全部班が分かれています。説明会の際、その話が抜けてしまったことで皆様にご不満が生じてしまい申し訳ありませんでした。このような事例は、市民の皆様からも話をいただいておりますので、業者には逐一内容を報告して改善の指示をしています。

質問4： 食品の検査は、福島県内だけなのか。宮城県や栃木県は、検査をしていないのか。基準値100Bq/kgを超えないものだけが市場に流通されるということだが、基準値の評価については、どのように考えたらよいか。例えば、原発事故前からこの基準値だったのか。事故があったが為に、基準値を100ベクレルにしたのか。

回答4： 県内では、検査を行っています。他県の状況は、一部の自治体や県では、検査をサンプル的に行っているところもありますが、ほとんどのところでは、検査を行っていません。100ベクレルと決めたのは、暫定基準値として平成24年4月1日です。その前は、食品の暫定基準値は500ベクレルでした。

質問5： 私達が、県内産、市内産を使わないと考えていることに、弊害はないか。

回答5： 風評被害は、あります。消費者庁でも、都内中心になりますが4ヶ月に1回ずつ食品のアンケート調査をしています。2割の方は、福島県のを絶対には買わないという方がいます。また、こだわらない、福島県のを買うという方もいます。他でも買っていただくように、地元でも少しずつ地元産を使う努力をして参ります。学校給食や家庭でも、皆様の理解を得て、1品ずつでも地元産を使っただけが必要があると思います。

質問6： サツマイモを植えて、地産地消として食育をしてきたが、原発で出来なくなった。農地を2回除染したから大丈夫なので、子ども達に使わせて良いという話が出てきた。農地除染は、どのようにしているのか。

回答6： 山際で、線量の高いところである馬場、押釜、高倉地区などについては、土壤に含まれる放射性セシウムが5,000ベクレルを超えています。トラクターで耕していないところは、表土を剥ぎ取り空間線量率を下げ

ています。それ以下のところについては、大きなトラクターを使い反転耕や深耕を行い、除染というより土の中に薄める形をとっています。実際にサツマイモを作っているかどうかは、肥料の与え方があって、しっかりとカリウムを与えると、セシウムの吸収が抑制されるということが実験ではっきり分かっています。

水について、アンケートの中でペットボトルを使っている方が沢山いることにびっくりしています。説明したとおり、市の水道水は安全ですので、保護者の皆様にも情報を伝えたいと考えております。各保育園で、セシウムは水道水には中々混入しないことを話して、皆様の不安感がなくなるのであれば、水道課として皆様のところに来てお話してみたいと思います。

質問7： 食品が安全だと行政側が言ってホームページで発表していると言われても、子育てで忙しいお母さんが、パソコンを開いて、ホームページでチェックしてから買いに行くことは、とても大変だ。安心というところで、トレイサビリティのようなシステムで、給食の野菜は南相馬市の誰が作っているのか、この食材は何ベクレルあるのかなど、消費者が分かるシステムづくりがあると良い。

例えば、冊子を渡して読んでくれと言っても、斜め読みで終わる場合が多い。坪倉先生に来てもらっても参加率が低かったりするので、チラシ1枚を継続的にシリーズ別に1年間12種類を作ってはどうか。

回答7： 試みとして、現場で生産者が線量を測って、シールを張るなど出来れば良いシステムだと思います。また、チラシについては、分かり易いショート編を1枚書いていただきたいと担当課に指示しております。

質問8： 農産物が生産者から消費者に届くまでの表の中にある注意書きに、生産者、直売所が独自に検査を実施とあるが、どこでどのようにしているのか。面積や地形によっても違う結果が出ることもあると思うがどうか。

回答8： 葉物野菜については、放射性物質を取り込まない性質があります。キャベツなど玉になる物は、葉物よりは取り込みやすいですが、基本的には、野菜はセシウムを取り込みにくい作物です。野菜は、1反から10サンプリングを取って検査にかけます。丸ごと凶る非破壊検査や500グラムや1キロに細かく切って検査にかける方法もあります。

質問9： 給食の話で、地産地消が良いと話があったが、小学校ではどこの産地の物を給食に出しているのか。

回答 9 : 小学校については、基本的に県外産です。米は、北海道産や新潟産を使っています。野菜については、放射性的検査体制が整ってきており、更には内部被曝の検査も行っていることから、安全性を確認しながら県内産の野菜も使い始めています。保護者には、給食便りでどこの野菜を使いますとお知らせして使っています。

質問 1 0 : 小学校で地元の野菜を使うようになれば、公立の保育園も準じて使うようになるのか。

回答 1 0 : 保育園の場合については、現在県内産は使っておりません。保育園と小学校や中学校とは、別と考えてください。

質問 1 1 : 雇用について、U I ターン就職の募集告知はどのように行っているのか。

回答 1 1 : 具体的には、道の駅南相馬内に、ふるさと回帰支援センターを設置しており、南相馬市に来たい方や永住したい方の相談を受けています。震災以降、就職は沢山ありますが、住宅が見つからない問題がありますので、空き家バンクなどを利用しながら受け入れて参ります。

質問 1 2 : 楽しいことが多い町は、どのような形でも人が集まってくると思う。今までは野馬追以外何もなかったが、今は、ロックフェスやイベントが沢山あるので、そのようなアピールを発信してはどうか。

回答 1 2 : 南相馬市内にいたからこそ受けられる交流は、県内ではトップだと思います。世界中、日本中を子ども達が支援の形で交流させていただいております。子ども達と話をすると、こちらが元気をいただきます。市役所自らイベントするのではなく、市民と一緒に実施しながらこの町のイベントを全国各地に情報発信して参ります。

質問 1 3 : 個人的な意見になるが、乳幼児の医者が少ない。特に乳児で、子供が2ヶ月の時に係りつけのクリニックに行ったが、1歳未満は診られないので産婦人科で診てもらおうと言われたので、出産した産婦人科に連絡したら1ヶ月未満の子どもしか診られないと言われた。このような時、どこで診てもらえば良いのか。

回答 1 3 : 小児科の医師については、平田先生が週1回しか出来ない状況です。どこにいけば良いのか皆様に周知する必要がありますので、今後検討して参ります。

質問 1 4 : 保護者の中では、中核となる病院は市立総合病院だという気持ちがあるので、子どもに何かあったら、とりあえず電話してみようと思う。そこで、うちでは診られない、他でも診られない、次は消防署に連絡してくれと言われ、消防署からは市立総合病院に連絡してくれと言われる。日本中で人材不足や医療従事者が少ないことも分かっているが、南相馬市でここにアクセスすると情報が全て取れるようなことが出来る広報の仕方をしてほしい。

回答 1 4 : 現状については、震災直後からは改善しておりますが、満足出来る状況かと言えば、全くそうではありません。どうすれば良いかと考えた時に、皆で知恵を出し合い助け合う気持ちを共有しないと、改善するスピードが遅れてしまいます。被災地の南相馬市だけではなく、人が少なく高齢者が多く医療が全くない地域もありますが、その地域に何とかしてお医者さんに来てほしいという思いを伝えながら、医療スタッフの確保に当たっているのが実態です。我々としては、南相馬市がこれだけのスタッフを必要としていて、南相馬市ではこのような暮らしが出来るということを皆で話し合いながら、システムを作り上げる努力をして参ります。

質問 1 5 : 5 5 カ所の作業員宿舎の把握の仕方は、どのようにしているのか。

回答 1 5 : 市、県、国の発注者側の情報から、各事業者に照会をして把握しています。また、宿舎の設置は、各行政区と事業者が協定書を結んでおりますので、それらも把握したものが 5 5 カ所です。但し、空き家を借り上げてグループで住んでいるケースもありますので、全て把握出来ていないことも事実です。

質問 1 6 : 5 5 カ所の作業員宿舎は、広報紙などで市民に知らせているのか。

回答 1 6 : 広報紙やホームページでお知らせはしておりませんが、今後数値を精査した上で、市民の皆様にもお知らせしたいと考えています。

質問 1 7 : 保育料無料措置の継続を求める。

回答 1 7 : 子育ての保育料、幼稚園授業料の無料化は、議会の中で答弁しており公約として書いてきました。私(市長)の就任期間は、継続して参ります。

質問 1 8 : 子どもを連れて公園に行くが、北泉や東ヶ丘公園に行った時感じたが、遊具が傷んでいて、使用禁止の物もあり危険だと感じた。既存の公園について、今後の整備予定はあるのか。

回答 18 : 北泉海浜公園にある陸の遊具は、ほとんど改修されました。今年の 4 月から供用を再開しています。海側の公園は、これから工事を進める状況です。各公園については、2 年かけて修繕や遊具をかえました。市としても、施設の長寿命化計画を立てながら、トイレなども含めて検討して参ります。

質問 19 : 待機児童が、現在 78 人いると聞いてびっくりした。病児・病後児保育があれば良いという声も聞いているが、厳しいことも分かっている。共働きの家庭を市でサポートするサービスがあれば教えてほしい。

回答 19 : 昨年度、市では子ども子育て支援事業計画を立て、病児・病後児保育についても大きな課題となっています。病児・病後児保育をする時は、保育士と看護師の確保が必要となり、ハードルの高い事業になっていますが、平成 29 年度に向けて何か出来る方策がないか考えております。また、課題になっているのが、親御さんが病気になったり、緊急で泊まらなければならなくなったりした時の対応について、国では児童養護施設を使って、子供のショートステイのような形の事業がありますので、対応出来る施設がないか検討しています。

質問 20 : 震災で避難していた山形県の天童市で、今年の 5 月に新たな室内遊具施設がオープンしたので、どんな施設か子どもを連れて出掛けたが、0 歳児から小学生まで幅広く遊べる充実した施設だった。南相馬市でもこのような施設が出来れば、子ども達が力一杯遊べると思う。これから建設するにあたって、他県の室内遊具施設を参考にしようか。

回答 20 : 県内の主な施設として、郡山市、本宮市、福島市などは視察をしてきました。今後もアンテナを高くしながら、情報収集に努めて参ります。